

2010年4月30日

# プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2010年4月30日】

団体名 社会福祉法人カリヨン子どもセンター

自立援助ホーム「カリヨンとびらの家」

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願いします)を添付して下さい。

## 1. プロジェクト名

ホームの総合的環境改善事業

## 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

家庭等からの支援が得られずに自立を目指す子どもたちが生活するグループホームが「児童自立生活援助事業(自立援助ホーム)」です。社会福祉施設ですが、支援ニーズや施設運営基盤づくりは各運営法人に任されており、国・自治体からの補助金も十分ではありません。子どもたちが、日々の生活をより快適に過ごし、退居後も心の支えとなるような職員との信頼関係を築くことができるように、また積極的に就労や自立に向けて取り組んでいけるように、施設建物のハード面と、職員のソフト面という、ホームの多面的な環境向上を目指すことが本プロジェクトの目的です。

## 3. プロジェクトの内容 300文字まで

- ①生活環境の改善: 現在のホームは、築40年になる木造住宅です。借家のため、大規模な改修はできませんが、6名の男の子たちがのびのびと、居心地よく生活できるように、施設の軽微な修繕と備品の購入を行いました。
- ②職員研修: 子どもたちのへの支援の可能性を広げていくために、新任職員からホーム長まで、それぞれの職務に応じた資質の向上を図る必要がありました。講師を招いての法人研修、外部の研修への参加を通して、職員の子どもへの関わりの力の底上げを図りました。

## 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

- ①生活環境の改善: 修繕の必要な箇所は多かったのですが、緊急度の高い箇所から(1)トイレの便座交換(現在の便座は小さい、水が止まらなくなることがある)、(2)門扉の修繕(柱が壊れくらぐらする。倒壊の危険)、(3)浴室修繕、(4)キッチン修繕、(5)照明器具取替え、(6)和室畳工事、(7)洗面ユニット取替えの7点の修繕を実施し、これらの生活環境が改善されました。但し、こうした工事箇所が多岐にわたったため、(3)～(7)事項については、東京都の安心子ども基金補助対象事業となりました)
- ②職員研修: 専門性と他施設との交流を図るために、東京都社会福祉協議会、全国自立援助ホーム連絡協議会の開催する研修へ参加しました。新任職員、中堅職員、ホーム長のそれぞれに適した内容を選択しました。また、子どもとのコミュニケーションをより充実するために、心理カウンセラーを講師に招いた法人研修を実施しました。

## 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

国・自治体の補助の範囲、あるいは法人の独力では、資金的にも、業務的にも、日常の施設運営だけで手いっぱいになりがちです。本プロジェクトでは、資金の援助は何より有難いことでありましたが、計画するに当たり、運営の各所を改めて見直すとてもよい機会となりました。また実際に生活環境に改善が施されたことによって、子どもたちがより快適に、安全に日々を送ることができるようになりました。施設の職員が現場を離れ、学びの場でモチベーションを向上させること、他施設職員と交流することは、スキルアップだけでなく、職務への息詰まりやバーンアウト防止につながります。充実したプログラムを実施することができ、心から感謝申し上げます。

## 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。	参考資料あり
---	--------